

丸森町「本来の姿」を目指して ～仮設団地でのつながりづくり～

「国際NGO 特定非営利活動法人

オペレーション・ブレッシング・ジャパン」の取り組み



▲雨天時は屋内で、参加者同士の距離をとって体操します。

ラジオ体操が生活の一部に

令和元年東日本台風(台風19号)により大きな被害を受けた丸森町では、町内6か所に仮設住宅団地が建設され、現在約170世帯360名の方が生活しています。各仮設団地では、週2回ラジオ体操を実施しており、住民の運動不足解消や仮設団地内でのコミュニティ形成につながっています。

そのラジオ体操活動の中心となっているのが、オペレーション・ブレッシング・ジャパン。活動を担当している藤本緑さんは昨年12月に丸森町の仮設団地へ支援に入り、当初は集会所へ物資の提供を行ない、2月頃からコミュニティ形成支援としてサロン活動を開始しました。その後、新型コロナウイルスの影響によりサロン活動を継続することが困難となった藤本さんは、住民からの「体を動かすことが少なくなった」という声を受け、屋外でできるラジオ体操を行うこととしました。藤本さんによると「ラジオ体操を始めたばかりの頃はよそよそしさがあつたが、最近では住民同士で声を掛け合つて参加を促している」とのこと。いつも参加しているという住民は「ここで体を動かして、皆と話をすることを毎

週楽しみにしている」と話しており、参加される方々の生活の一部として定着している様子が伺えました。

いずれは住民主体の活動へ

藤本さんの丸森町での活動は、仮設団地でのコミュニティ形成の目途がつくまでという期限のある活動です。「私たちがいない状態が丸森町本来の姿」と話す藤本さんには、いずれは住民が主体となり、ラジオ体操などの活動を実施してほしいという思いがあります。そのため、徐々にラジオ体操の運営を住民へ引き継いでいくように、準備や後片付けなどを手伝ってくれる方を募集し、名乗り出てくれた方に役割を担ってもらっています。

また、地元で住民への支援を続けていく丸森町社協に活動をつなぐことも意識しているとのこと。仮設団地の見守り・訪問活動を

実施している丸森町社協地域支え合いセンターとの情報共有会



▲体操後は水分補給をしながら会話をします。

議を月1回開催するほか、定期的に社協を訪れ、活動の中で気になった住民について報告し、情報を共有しています。お互いに持っている情報を共有し、それぞれの活動に活かしており、「丸森町社協」といい形で連携できている」と話します。

丸森町「本来の姿」を目指して

新型コロナウイルスの影響により、これまでと同じような活動ができず、迷いながら活動してきたという藤本さん。徐々に手伝ってくれる住民や、体操後にお茶を飲みながら歓談する住民の数が増えてきました。そのような住民の変化をみて、「迷いながらもあつたが、活動を続けてきてよかった。体操そのものが目的ではなく、様々な活動を通して心と体が元気になってほしい。」と話します。

住民が主体となり様々な活動を行なえるように、また、住民同士が互いに気に掛けあう関係がつけられるように、「本来の姿」を目指し、藤本さんの丸森町での活動は続きます。

(宮城県社協取材)